

第40回  
教育研究全国大会（宮崎大会）  
マニュアル

別冊

**期日**

令和5年8月5日（土）～6日（日）

**会場**

**分科会・助言者ゼミナール**

シーガイアコンベンションセンター

- |            |           |
|------------|-----------|
| ① 学習指導A    | 4階【 天 蘭 】 |
| ② 学習指導B    | 4階【 天 玉 】 |
| ③ 道徳教育     | 4階【 天 樹 】 |
| ④ 健康教育     | 4階【 天 葉 】 |
| ⑤ 学校マネジメント | 3階【 瑞 洋 】 |
| ⑥ 特別支援教育   | 3階【 海 峰 】 |

**全体会・記念講演**

シーガイアコンベンションセンター 4階【 天 瑞 】

**【本部事務局】**

シーガイアコンベンションセンター 4階【 アンバールーム 】



美しい日本人の心を育てる

全日本教職員連盟

# 第40回 教研全国大会 分科会進行上の留意点

## 1 分科会役員打合せ全体会

(8月5日 9:00 シーガイアコンベンションセンター 4階 天蘭)

- 司会者、提案者により分科会の進め方を協議する。
- 提案発表時間 20分を厳守することを確認する。

## 2 分科会別打合せ①(提案者)

(8月5日 分科会役員打合せ全体会終了後、シーガイアコンベンションセンター 各分科会場へ)

- 全体説明終了後、当日の簡単な流れの確認や使用機器の動作確認を行う。  
《各分科会及び会場》

分科会名	分科会会場
1 「学習指導A」	シーガイアコンベンションセンター 4階「天蘭」
2 「学習指導B」	シーガイアコンベンションセンター 4階「天玉」
3 「道德教育」	シーガイアコンベンションセンター 4階「天樹」
4 「健康教育」	シーガイアコンベンションセンター 4階「天葉」
5 「学校マネジメント」	シーガイアコンベンションセンター 3階「瑞洋」
6 「特別支援教育」	シーガイアコンベンションセンター 3階「海峰」

## 3 分科会別打合せ②(助言者)

(8月5日 11:00 シーガイアコンベンションセンター 各分科会場)

- 8月5日分科会担当の助言者と各分科会場で打合せを行う。
- 分科会Aと分科会B及び分科会Cは、それぞれ独立した分科会であることを、助言者にしっかりと念を押す。また、分科会A、B、Cそれぞれに2つの提案発表と研究協議に対する指導助言をいただくことを確認する。
- 各会場でOA機器等の動作最終確認をする。

## 4 分科会

(8月5日 13:00~16:15 シーガイアコンベンションセンター 各分科会会場)

- 分科会Aと分科会B及び分科会Cは、それぞれ独立した分科会であることを念頭に進行する。
- 司会者の役割分担は、2人で話し合って決める。
- 提案の順番は、大会資料に従う。
- 助言者は、控室【シーガイアコンベンションセンター 4階 アイボリールーム】で昼食をとる(副委員長等が控室へ案内)。
- 分科会終了後、司会者は、助言者と助言者ゼミナール(各分科会場)の打合せを行う。
- 司会者は、そのまま助言者ゼミナールの進行を行う。

※ 第5分科会は来賓参加(都城市教育委員会教育長(児玉晴男様))。座席を前の方に準備しておく。(御挨拶後、退席予定)

分科会の進行例

会場長は会場全体の責任者、副会場長は分科会開会式式の進行

時刻	流れ	担当	発言例	備考
9:00	分科会打合せ会 (全体会) 分科会打合せ会 (分科会) 提案者との 打合せ	役員全員	挨拶 (前田 晴雄 全日教連委員長、永井 草造 大会運営委員長) ・分科会の流れを確認する ・分科会の流れや使用機器の確認等行う (会場長) ・提案者との打合せ・リハーサルを行う ・副委員長が助言者を案内する ・助言者と流れについて打合せをする	※ 座席についてのお願い (繰り返し) 分科会会場はグループ席になります。発表の後の協議をグループ席ごとに行います。特に座席の指定は行っていませんが、グループ協議で多様な意見が出るよう、できるだけ単位団体は分散して席にお着きください。
11:00	助言者との 打合せ	役員全員	※ 分科会の提案資料は事前に各席に並べておく ※ 名札の着用を確認する	○ 当日帰る助言者の荷物は、ホテルで保管
12:40	分科会 受付開始	受付	※ 分科会の提案資料は事前に各席に並べておく ※ 名札の着用を確認する	○ 2分前には着席できるように各控室を出発する
12:50	助言者を分科 会会場へ案内	全日教連役 員	※ 全日教連役員は、助言者を各分科会会場へ案内する	
13:00	開始 (挨拶)	副会場長	こんにちはは、本日、第〇分科会の進行をさせていただきます副会場長の ( ) でございます。よろしくお願いいたします。 また、非常時の際には、係の誘導に従い、避難口より避難をお願いいたします。 つづきまして、本日は、ハイブリッド開催です。オンライン参加の皆様には、会場の雰囲気等を含め伝えていくところもあるかと思っておりますが、どうぞご了承ください。 続きまして会場長の自己紹介です。	※ 第5分科会のみ3分早く始める (委員長挨拶終了後：司会) ここで本日、この第5分科会に御来賓がお見えですので、会場長が御紹介いたします。 (会場長) 都城市教育委員会教育長 児玉晴男 (こだまはるお) 様です。 (児玉教育長挨拶) ○○○。 (会場長) なお、児玉様におかれましては、所要のためご退席なされます。拍手でお送りください。
13:02	閉会挨拶	会場長	※ オンラインの方への案内 本日はハイブリッド開催です。オンラインの方は、表示名を単位団体名+氏名に変更してください。なお、御質問などがある場合にはチャットをご活用ください。音声での御発言は会場に聞こえないように設定されていますがオンライン上での音声でのやり取りはできますので設定をミュートでお願いいたします。チャットへの御質問は適宜、協議の中で司会者が取り上げて進行します。なお、全ての御質問には時間の関係でお答えできませんので御了承ください。 こんにちはは、会場長の ( ) です。どうぞよろしくお願いたします。 分科会開催に先立ちまして、閉会挨拶を大会委員長の前田晴雄 (まえだ はるお) より申し上げます。前方のスクリーンを御覧ください。 「皆様、こんにちは。大会委員長の前田です。…」 (動画で対応)	○ 設営係：委員長挨拶をPCより流す。 ○ 委員長の挨拶の中に大会基調の内容を含める (3分)
13:06	司会者紹介	副会場長	次に、本日の提案発表の司会をしていただく先生方を御紹介いたします。こちらから ( ) 【単位団体名】の ( ) 先生です。そのお隣が ( ) の ( ) 先生です。	○ 会場長は、分科会の進行について調整する。時間配分等に気を配り、可 会者等に連絡する。

分科会の進行例

時刻	流れ	担当	発言例	備考
13:08	提案者紹介	副会場長	続いて、本分科会の提案者の先生方を御紹介いたします。( ) 先生 最初に御提案いただくのは(団体名)の( ) 先生 です。 2番目に御提案いただくのは(団体名)の( ) 先生 です。 最後に御提案いただくのは(団体名)の( ) 先生 です。 どうぞ、よろしく願います。	○ 提案の順番は、大会冊子に従う。
13:10	助言者紹介	副会場長	それでは、会場長が本分科会の助言者の先生を御紹介いたします。	
		会場長	第( )分科会助言者の( ) 先生を紹介いたします。 【略歴等紹介】	○ 別紙略歴を紹介する。
		副会場長	では、( ) 先生に一書御挨拶をいただきたいと存じます。 ( ) 先生、お願いいたします。	
	助言者挨拶		【助言者挨拶】	○ 助言者に簡単な挨拶をいただく。
		副会場長	どうもありがとうございます。ごさいます。 ( ) 先生には、提案発表後に御指導を属ります。 よろしく願います。	
		副会場長	それでは、ここで本分科会の進行を司会の先生にお渡しいたします。どうぞよろしくお願います。	
	司会者挨拶	司会者A 司会者B	本分科会の司会進行を務めます【単位団体名】の( ) 先生です。 この分科会が有意義な会となりますよう、精一杯務めさせていただきますので、御協力 よろしく願います。 同じく、司会を務めます【単位団体名】の( ) 先生と申します。どうぞよろしく お願います。	○ 司会者は、事前に分担を決めておく。(なお、分担は臨機応変に決めて 良い)

分科会の進行例

時刻	流れ	担当	発言例	備考
13:15	日程説明	司会者A	<p>日程を御説明いたします。</p> <p>各御提案は、20分以内でお願いします。それぞれの提案発表後に10分間程度の意見交流の時間を設け、その後10分程度の質疑の時間を設けます。最後に、助言者の先生から10分程度で御指導・御助言をいただきます。</p> <p>それでは副委員長（第5分科会は宮教研連副会長）に分科会基調の概略を説明していただきます。よろしくお願いします。</p>	
13:20	基調提案（3分）	副委員長	<p>【分科会基調概略説明】</p> <p>全日本教職員連盟副委員長（第5分科会は宮教研連副会長）の○○です。・・・</p>	
	質疑応答の 視座確認	司会者A	<p>以上の基調に従い、本分科会を運営させていただきます。</p> <p>それでは、最初の御提案を（ ）先生、お願いいたします。</p> <p>なお、提案発表に対する質疑につきましては、時間が限られておりますので、基調に沿った有意義なものとなるよう、御参加の皆様への御協力をお願いいたします。また、機器操作の都合上、オンライン上でご参加の皆様への質問・意見は、チャットにてお願いいたします。</p>	
13:25	提案発表A（20分）	提案者A	<p>《提案発表》</p>	<p>○スライドの発表になったら 設営係：機軸準備</p>
13:45	提案発表A に対する グループ協議 （10分）	司会者A	<p>（ ）先生、ありがとうございます。</p> <p>今から10分程度、ただ今の提案発表についてグループで意見交流をしていただきたいと思います。お願いします。意見交流の前に簡単な自己紹介をしてください。</p>	<p>オンラインの参加者が10名以上になる場合には、適宜、ブレイクアウトルームを設定する。</p>
13:55	提案発表A に対する 質疑応答 （10分）	提案者A	<p>オンラインの参加の方は、オンライン上で意見交換を行います。なお、質問などがありましたら、代表の方が、チャットに書き込んでください。なお、時間の関係で、全ての御質問にはお答えできない場合があります。ご了承ください。</p> <p>グループでの意見交流等を参考にさせていただきます。提案発表に対する御質問・御意見がございましたら、代表の方が、チャットに書き込んでください。ご了承ください。</p>	<p>○発言者には所属・氏名を言ってもらう。以後も同じ。 ○司会者は関連の質問をとりまとめ、効率よく質疑応答ができるように努める。 ○フィードバックを質問者に渡す担当を確認しておく（会場長） ○オンラインでの参加者はチャットで質問を行う。</p>
14:05		司会者A	<p>時間となりました。</p> <p>（ ）先生、貴重な御指導・御助言をいただきました。ありがとうございます。</p>	
14:15	（10分）	助言者	<p>《指導助言》</p> <p>（ ）先生、貴重な御指導ありがとうございます。また、提案者の先生方には、素晴らしい御提案をいただきました。ありがとうございます。</p> <p>皆様、大きな拍手をお願いいたします。</p> <p>それでは、ここで10分間の休憩に入ります。</p> <p>オンライン参加も含めて他の分科会に移られる方は14時25分開始となりますので、お急ぎください。なお休憩の間に、各部署の間に、各部署の受付にある提案資料をお取りください。</p>	

分科会の進行例

時刻	流れ	担当	発言例	備考
14:15	移動・休憩			
14:25		司会者B	それでは、次の提案発表にうつりたいと思います。 ( ) 先生、お願いいたします。	○質疑応答と指導助言の後、提案者や会場長を中心に、次の発表の準備を行う。
14:25	提案発表B (20分)	提案者B	《提案発表》	○スライドの発表になったら 設営係：機器準備
14:46	提案発表B に対する グループ協議 (10分)	司会者A	( ) 先生、ありがとうございます。 今から10分程度、ただ今の提案発表についてグループで意見交流をしていただきたいと思います。 意見交流の前に簡単な自己紹介をしてください。	
14:55	提案発表B に対する 質疑応答 (10分)		グループでの意見交流等を参考にさせていただき、提案発表に対する御質問・御意見がござ いましたらお受けしたいと思いますと思 います。	○発言者には所属・氏名を言ってもら う。以後も同じ。 ○司会者は関連の質問をとりま とめ、効率よく質疑応答が できるように努 める。 ○ワイヤレスマイクを質問者 に渡す担当を確保しておく (会場長) ○オンラインでの参加者は チャットで質問を行う。
15:05		司会者A	時間となりました。 ここで助言者の先生から、御指導・御助言を いただきたいと思 います。 ( ) 先生、お願いいたします。	
15:15	(10分)	助言者	《指導助言》	
15:15		司会者A	( ) 先生、御指導いただきありがとうございます。また、提案者の先生方 には、素晴らしい御提案をいただき、ありがとうございます。 皆様、大きな拍手をお願 いいたします。 それでは、ここで10分間の休 息に入ります。 オンライン参加も含めて他の 分科会に移ら れます。方 は15時25分開始となりますので、お急 ぎください。なお休憩の間に、各都 府の受付にある提案資料をお取 りください。	
15:15	移動・休憩			○質疑応答と指導助言の後、提案者や会場長を中心に、次の発表の準備を行う。
15:25		司会者B	それでは、次の提案発表にうつりたいと思 います。 ( ) 先生、お願いいたします。	
15:25	提案発表C (20分)	提案者C	《提案発表》	○スライドの発表になったら 設営係：機器準備

分科会の進行例

時刻	流れ	担当	発言例	備考
15:45	提案発表C に対する グループ協議 (10分)	司会者A	( ) 先生、ありがとうございます。 今から10分程度、ただ今の提案発表についてグループで意見交流をしていただきたいと思います。 います。意見交流の前に簡単な自己紹介をしてください。	
15:55	提案発表C に対する 質疑応答 (10分)		グループでの意見交流等を参考にさせていただき、提案発表に対する御質問・御意見がござ いますらお受けしたいと思います。	○ 発言者には所属・氏名を言ってもらおう。以後も同じ。 ○ 司会者は関連の質問をとりまとめ、効率よく質疑応答ができるように努 める。 ○ ワイヤレスマイクを質問者に渡す担当を確認しておく(会場長) ○ オンラインでの参加者はチャットで質問を行う。
16:05		司会者A	時間となりました。 ここで助言者の先生から、御指導・御助言をいただきたいと思つています。 ( ) 先生をお願いいたします。	○ 質疑応答と指導致言の後、提案者や会場長を中心に、次の発表の準備を 行う。
16:15	(10分) 挨拶 事務連絡	助言者 司会者B	《 指 導 助 言 》 ( ) 先生、貴重な御指導ありがとうございます。また、提案者の先生方に は、私たち会員のために素晴らしい御提案をいただき、ありがとうございます。 皆様、大きな拍手をお願いいたします。 以上で、分科会を終わらせていただきます。大変ありがとうございます。	
16:15		副会場長	なお、この後、16:30より各分科会場にて、指導助言者の先生方による助言者ゼミナ ールを開催いたします。 大会冊子でゼミの内容と講師を御確認いただき、御希望された会場へ移動をお願いいた します。オンライン参加の皆様で移動される方も別のお部屋へご移動ください。 本会場では引き続き( ) 先生に( ) をテーマに御講話を いただきます。 準備の都合もございまして、しばらく時間が空きますが、助言者ゼミナール開始まで の間、休憩とします。 また、各分科会会場で余った資料につきましては、各分科会会場前に置かせていただい ております。御希望の方はお取りください。なくなり次第終了いたしますので御容赦く ださい。 16:25には各会場にお入りになりますよう、お願いいたします。 以上をもちまして、第○分科会( ) を終了いたします。会場の皆様、オン ラインの皆様、お疲れ様でした。	発表資料残部は全て2階の受付に集めて ある
16:20	移動	司会者A	☆ 司会者は、助言者ゼミナールの打合せを行う。基本的には助言者に任せ、導入の仕方や時間配分(質問時 間10分の確保)等について確認する。明日の全体会でも名札を着用することを伝える。 ☆ 終了は厳守してもらう。	

1	<b>学習指導 A</b>
テーマ	<b>我が国と郷土の歴史や伝統・文化への理解を深める学習指導</b>
基調	<p>教育基本法には、教育の目標として「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が示されている。これは国民一人一人が、自国の国土や文化、人々や社会への理解を深め、大切に思うことや、その一員として自らも主体的に参画していく意識や態度を涵養することは、国家社会の形成者である国民として重要であるとの考えの基、規定されたものである。また、今年度から全ての校種において全面実施となった学習指導要領においても、我が国の言語文化や文化の特色、伝統的な生活文化の継承・創造等に関する内容の充実が図られることとなっている。</p> <p>加えて、急速にグローバル化が進展する現在、自らが国際社会の一員であることを自覚し、自分とは異なる文化や歴史を背景にもつ人々と共生していくことが重要な課題となっている。これらの課題を解決するためには、子供たちが我が国や郷土の伝統・文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることにより、我が国や郷土を愛し、誇りを育む教育が、今後ますます重要となる。そして、これらを踏まえ、我が国や郷土の伝統・文化に立脚した新たな価値を創造することで、国際社会の平和と発展に寄与する人材を育成していかなければならない。</p> <p>本分科会では、我が国と郷土の歴史や伝統・文化を深く理解・尊重し、日本人としてのアイデンティティを育むための教材開発や指導の在り方について、研究を深めていく。そして、それらを通して、他国を理解し、尊重する態度を養い、国際社会の平和と発展に寄与する教育の在り方について提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 我が国の歴史や伝統・文化の理解を深めるための教材開発と指導の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各学年、各教科・領域をつなぐ学習指導計画と指導</li> <li>② 我が国の歴史や伝統・文化の理解を深める取組を生かした国際理解教育</li> </ol> </li> <li>2 郷土の歴史や伝統・文化の理解を深めるための教材開発と指導の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各学年、各教科・領域をつなぐ学習指導計画と指導</li> <li>② 総合的な学習の時間や特別活動等における身近な地域教材の開発と指導</li> <li>③ 地域人材やコーディネーター等サポート人材の確保と活用</li> <li>④ 教育関係機関や地元企業等と連携・協力した体制の構築</li> <li>⑤ 異校種で連携した取組</li> </ol> </li> </ol>



# 指導助言者略歴 紹介原稿

第1分科会

高橋 史朗 先生

第1分科会、助言者の高橋史朗（たかはししろう）先生を御紹介いたします。  
高橋先生は、早稲田大学大学院修了後、スタンフォード大学フーパー研究所客員  
研究員、玉川大学大学院講師、明星大学教授、麗澤大学大学院特任教授を歴任。  
また臨時教育審議会専門委員、国際学校研究委員、委員青少年健全育成調査研究  
委員会座長、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略検討会議「地域・家族の  
再生」分科会委員

等を歴任され、現在は麗澤大学特別教授、モラロジー道徳教育財団道徳科学研究所  
教授をお務めでいらっしゃいます。

御著書として

「新東京裁判論」

「WGIPと歴史戦」

等、多数ございます。

以上で高橋先生の御紹介を終わります。

## <略歴>

- ◎ 麗澤大学特別教授、モラロジー道徳教育財団道徳科学研究所教授
- ・ 早稲田大学大学院修了後、スタンフォード大学フーパー研究所客員研究員
- ・ 臨時教育審議会（政府委嘱）専門委員
- ・ 国際学校研究委員（文部省委嘱）委員
- ・ 神奈川県学校不適応（登校拒否）対策研究協議会専門部会長
- ・ 青少年健全育成調査研究委員会（自治省委嘱）座長
- ・ 仙台市男女共同参画審議会委員
- ・ 「子どもと家族を応援する日本」重点戦略検討会議「地域・家族の再生」分科会委員（政府委嘱）

玉川大学大学院講師、親学会副会長、埼玉県教育委員会委員長、埼玉県青少年健全育成審  
議会会長、東京都男女平等参画審議会委員、明星大学教授、麗澤大学大学院特任教授を経て、  
現職。他、一般財団法人親学推進協会会長、日本家庭教育学会常任理事、日本マナー  
マイスター学会会長、日本仏教教育学会常任理事、日本健康行動科学会理事、日本感性教  
育学会理事、国家基本問題研究所理事、男女共同参画審議会議員（政府委嘱）

## <著書>

- 「悩める子供たちをどう救うか」（PHP 研究所）
- 「教科書検定」（中央公論社）
- 「感性・心の教育（全5巻）」「癒しの教育相談（全4巻）」「平和教育のパラダイム転換」（明治図書）
- 「魂を揺り動かす教育」「教育再生の課題（上・下）」（日本教育新聞社）
- 「感性教育」「ホリスティック医学と教育」（至文堂）
- 「感性を活かすホリスティック教育」（玉川大学出版）
- 「『学校崩壊』10の克服法」（ぶんか社）
- 「日本文化と感性教育」（モラロジー研究所）
- 「ホリスティックな学校教育相談」（学事出版）
- 「親と教師が日本を変える」（PHP 研究所）
- 「親学のすすめ」「続・親学のすすめ」（モラロジー研究所）
- 「親が育てば子供は育つ」「これで子供は本当に育つのか」「親学対談」（MOKU 出版）
- 「主体変容の教育改革」（MOKU 出版）
- 「親学Q&A」
- 「脳科学から見た日本の伝統的子育て」（モラロジー研究所）
- 「家庭教育の再生 今なぜ『親学』『親守詩』か」（明成社）
- 「日本が二度と立ち上がれないようにアメリカが占領期に行ったこと」（致知出版社）
- 「『日本を解体する』戦争プロパガンダの現在 WGIPの源流を探る」（宝島社）
- 「新東京裁判論」（産経新聞社）
- 「WGIPと歴史戦」（モラロジー研究所）

2	<b>学習指導 B</b>
テーマ	<b>学びの連続の中で確かな資質・能力を育む学習指導</b>
基調	<p>近年の全国学力・学習状況調査の結果から、子供たちの抱える課題の傾向として、目的や意図に応じて自分の考えの根拠を明確にし、まとめて書いたり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりすること等が指摘されている。また、令和3年の中央教育審議会答申では、GIGA スクール構想により整備が進められた1人1台端末をはじめとするICTを最大限活用して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図っていくことが重要であるとされた。</p> <p>学習指導要領では、児童生徒が未来を切り拓いていくためには、学校教育において「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」の3つの資質・能力を育成することが必要であるとしている。これらを獲得し、他の学習や生活の場面で活用できるような確かなものに高めるためには、子供たちが興味・関心を原動力として、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的に課題解決に取り組むことにより、深い学びを実現することが重要である。教師は、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を十分に理解した上で、子供たちが習得した知識を相互に関連付けたり、身に付けた思考力を発揮したりしながら課題解決を図る授業をデザインしなければならない。これを実現するには、子供たちの興味・関心を引き出す導入、課題意識が連続する単元構成の工夫、対話を通じて自他の考えを吟味する協働的な場の設定等、学び全体を見通し、常に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」という3つの視点で授業改善を図ることが必要である。そして、これらの実践が各発達段階の学習で繰り返されることで、3つの資質・能力が更に確かなものになり、子供たちが未来を切り拓いていくための、新しい価値を創造する力を身に付けさせることができると考える。</p> <p>本分科会では、学びの連続の中で子供たちに確かな資質・能力を育む方策について、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に立った学習指導の在り方やICTを効果的に活用した授業改善等、具体的な実践事例を基に研究を深めていく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点からの授業改善の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 児童生徒の意欲の向上を図る手立て</li> <li>② 他者の考えと交流し自己の考えを広げる手立て</li> <li>③ 「見方・考え方」を働かせる学びの設定</li> </ol> </li> <li>2 3つの資質・能力を育成するための「カリキュラム・マネジメント」の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学びの連続を生む単元構成、指導計画の工夫</li> <li>② 教科・学年・単元における「見方・考え方」の明確化</li> <li>③ 学習過程の工夫・改善</li> <li>④ 児童生徒の能動的な学び・教師の指導改善につながる評価</li> <li>⑤ 幼・小・中・高を見通した学習指導</li> <li>⑥ 「指導の個別化」「学習の個性化」による「個別最適な学び」の実現</li> </ol> </li> </ol>

## 指導助言者略歴 紹介原稿

第2分科会	明石 要一 先生
-------	----------

第2分科会、助言者の明石要一（あかしよういち）先生を御紹介いたします。

明石先生は、東京教育大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学後、千葉大学教育学部助手、講師、助教授、教授、学部長を歴任。また文部科学省中央教育審議会委員、同生涯学習分科会会長、同スポーツ・青少年分科会委員、千葉敬愛短期大学学長を歴任され、現在は千葉大学名誉教授をお務めでいらっしやいますとともに、日本教育文化研究所所長を引き受けていただいております。

御著書として

「生き方がみえてくるナガシマ学」  
「教えられること教えられないこと」

等、多数ございます。

以上で明石先生の御紹介を終わります。

### <略歴>

- ◎ 千葉大学名誉教授
  - ・東京教育大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学
  - ・昭和51年千葉大学教育学部助手、53年同講師、55年同助教授、平成5年同教授、平成17年同学部長、千葉敬愛短期大学学長
  - ・文部科学省中央教育審議会委員
  - ・同生涯学習分科会会長
  - ・同スポーツ・青少年分科会委員
  - ・千葉市教育委員（本学関係を除く）

### <著書>

- 『戦後の子ども観を見直す』明治図書、1995年
  - 『学級の集団的機能を見直す』明治図書、2002年
  - 『データが語る平成の子ども気質』明治図書、2004年
  - 『子どもの放課後改革はなぜ必要か』明治図書、2005年
  - 『キャリア教育はなぜ必要か』明治図書、2006年
  - 『独立法人大学改革—学部長”守旧派”と闘う』明治図書、2007年
  - 『子どもの規範意識を育てる』明治図書、2009年
  - 『ガリ勉じゃなかった人はなぜ高学歴・高収入で異性にモテるのか』講談社α新書、2013年
  - 『生き方がみえてくるナガシマ学』オークラ出版、2015年
  - 『教えられること教えられないこと』さくら社、2021年
- これまでは単著

- 『統率力で危機管理をする原則』編著明治図書、2011年
- 『統率力で規範意識を育てる』編著明治図書、2011年

3	<b>道徳教育</b>
テーマ	<b>「特別の教科 道徳」を要とする豊かな道徳性を育む心の教育</b>
基調	<p>子供たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、子供たちの自尊感情や規範意識の低下が指摘されている。加えて、いじめや自殺、不登校等も深刻な社会問題となっている。これらの問題に子供たち自身が対応し、将来において自立した人間として他者とともによりよく生きていくことができるようにするために、豊かな道徳性（道徳的な判断力や心情、実践意欲と態度）を育む心の教育の充実が強く望まれている。</p> <p>子供たちに豊かな道徳性を育成するためには、道徳的価値を基に自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたり、自己の生き方について考えを深めたりすることが必要であり、「特別の教科 道徳」を要として、学校の教育活動全体を通じた道徳教育をより一層充実させていかなければならない。</p> <p>そのためには、まず「特別の教科 道徳」の学習（読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習や、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等）において、特質を踏まえた上で、主体的に考え、議論することができるよう多様な指導を展開することが求められる。また、各教科や特別活動等においては、先人の生き方を通して日本人としての誇りやアイデンティティを醸成し、体験活動や交流活動を通して様々な人たちと積極的に関わっていくことができるように工夫することが大切である。そして、学校と家庭、地域が連携した指導体制づくりに取り組み、学校教育全体を通じて豊かな道徳性を育むことが私たち教職員に課せられた使命である。</p> <p>本分科会では、豊かな道徳性を育む実践について、研究を進めていく。そして、子供たちが将来において自立した人間として他者とともによりよく生きるために、「特別の教科 道徳」を要としながら、全ての教育活動を通じて心の教育の充実につながる指導体制の在り方について提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 豊かな道徳性を育むための「特別の教科 道徳」の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 道徳的価値の理解を深める指導方法</li> <li>② 多面的・多角的に考え、自己を見つめる指導方法</li> <li>③ 道徳的な心情や意欲を高め、教育活動全体での道徳的実践につながる指導内容</li> <li>④ 児童生徒の道徳性に係る成長の様子を捉える評価</li> </ol> </li> <li>2 道徳教育を充実させるための指導体制の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実</li> <li>② 「特別の教科 道徳」と全ての教育活動とを関連させたカリキュラム・マネジメントの実践</li> <li>③ 学校と家庭、地域、異校種間での連携</li> </ol> </li> </ol>

## 指導助言者略歴 紹介原稿

第3分科会

押谷 由夫 先生

第3分科会、助言者の押谷由夫（おしたによしお）先生を御紹介いたします。

押谷先生は、広島大学大学院修了後、高知女子大学助教授、文部省・文部科学省教科調査官、昭和女子大学大学院教授を歴任され、現在は、武庫川女子大学大学院教授、日本道德教育学会名誉会長をお務めでいらっしゃいます。

御著書として

「生きるための『正義』を考える本」  
 「新道德教育全集 第1巻 道德教育の変遷・展開・展望」  
 等、多数ございます。  
 以上で押谷先生の御紹介を終わります。

### <略歴>

- ◎ 武庫川女子大学大学院教授（平成29年4月より）
- ・1952年、滋賀県生まれ
- ・広島大学大学院修了 博士（教育学）
- ・高知女子大学助教授等を経て、昭和63年より文部省・文部科学省教科調査官、平成13年10月より昭和女子大学大学院教授
- ・日本道德教育学会名誉会長
- ・心を育てる教育研究会主宰
- ・（公）「小さな親切」運動本部顧問
- ・（公）日本弘道館理事
- ・文部科学省各種会議委員を歴任 等

### <著書・編著>

- 「総合単元的道德学習論の提唱」1995 文溪堂
- 「新しい道德教育の理念と方法」1999 東洋館出版
- 「『道德の時間』成立過程に関する研究」2001 東洋館出版
- 「さわやかマナー」（全3巻）編著 2002 玉川大学出版部
- 「世界の道德教育」編訳 2002 玉川大学出版 等
- 「豊かな自分づくりを支える道德の授業」（全6巻）編著 2003 教育出版
- 「保育と道德」編著 2006 保育出版社
- 「CD-ROM版 小学校道德教育資料・実践事例集」編著 2006 ニチブン
- 「各教科で行う道德指導」編著 2009 教育開発研究所
- 「道德で学校・学級を変える」編著 2010 日本文教出版
- 「道德性形成・徳育論」編著 2011 NHK出版 等
- 「道德の時代がきた」編著 2013 教育出版
- 「道德の時代をつくる」編著 2014 教育出版
- 「新教科道德はこうしたらおもしろい」編著 2015 図書文化
- 「自ら学ぶ道德教育」（第2版）編著 2016 保育出版社
- 「道德教育の理念と方法」編著 2016 NHK出版
- 「アクティブ・ラーニングを位置づけた小学校特別の教科道德の授業プラン」編著 2017 明治図書
- 「平成29年度改訂 中学校教育課程実践講座 特別の教科 道德」編著 2018 ぎょうせい
- 「平成29年度改訂 小学校教育課程実践講座 特別の教科 道德」編著 2018 ぎょうせい
- 「生きるための『正義』を考える本」編著 2019 学研プラス
- 「新道德教育全集 第1巻 道德教育の変遷・展開・展望」編著 2021 学文社

4	<b>健康教育</b>
テーマ	「食育」「学校保健」「体育（保健領域）」を通じた生活習慣の改善を図る教育
基調	<p>子供たちを取り巻く環境が複雑化・困難化する中で、家族形態や生活様式が変化し、基本的な生活習慣が十分に身に付いていない子供たちが増加している。それに伴い、朝食欠食等の生活リズムの乱れ、小児生活習慣病の増加、体力や運動能力の低下等が、学校を含めた社会全体で解決すべき大きな課題となっている。また、学校における新型コロナウイルス感染症対策や、体力低下等についても大きな課題となっている。</p> <p>文部科学省も、健康に関する知識を身に付けることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力の育成を目標に掲げている。</p> <p>調和のとれた食事、十分な休養・睡眠、適度な運動等の基本的な生活習慣を確立することが、学習意欲や気力・体力の向上等に良い影響を与え、基盤として欠かせない。そのために、私たち教職員は、子供たちが主体的に学ぶ中で、自ら生活習慣を整え、自律的に生きていくことができるように健康教育の充実に努めなければならない。また、全教職員がそれぞれの専門性を生かし連携する校内指導体制の構築、並びに異校種間、家庭・地域との連携も重要である。さらに、感染症対策と子供たちの健やかな学びの保障の両立を実現する安心・安全な学校体制の確立も求められている。</p> <p>本分科会では、児童生徒が自己の生活習慣を見つめ直し、将来を見据え健全な心と体を培うための生活習慣を確立するとともに、実践し続けようとする態度を身に付ける方策を及び安心・安全な学校の実現について「食育」「保健」「体育」の3つの観点から探究する。そして、健康教育に関わるあらゆる分野から、児童生徒の健やかな成長を図るための指導体制の在り方について提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康教育を推進するための指導の在り方 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食に関心を持ち、よりよい食を正しく選択できる食育</li> <li>② 自らの健康について高い意識をもつことができる教科指導</li> <li>③ 感染症予防について高い意識をもつことができる学校保健</li> </ol> </li> <li>2 健康教育を推進するための指導体制の在り方 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校内指導体制の確立・充実</li> <li>② 家庭、地域、関係諸機関等との連携</li> <li>③ 安心・安全な学校を実現するための感染症対策</li> <li>④ 異校種間連携</li> </ol> </li> </ol>

## 指導助言者略歴 紹介原稿

第4分科会

渡邊 智子 先生

第4分科会、助言者の渡邊智子（わたなべともこ）先生を御紹介いたします。  
渡邊先生は、千葉県立衛生短期大学教授、千葉県立保健医療大学教授及び学科長、淑徳大学教授）を歴任。また文部科学省による日本食品標準成分表の策定に食品成分委員会委員等として30年にわたり携っておられ、東京栄養食糧専門学校校長をお務めでいらっしゃいます。  
御著書として  
「食べ物と健康 食事設計と栄養・調理増補」  
「和食と健康」  
等、多数ございます。  
以上で渡邊先生の御紹介を終わります。

### <略歴>

- ◎ 現在、学校法人食糧学院東京栄養食糧専門学校 理事・校長、千葉県立保健医療大学名誉教授、千葉県学校保健学会理事長、産業栄養指導者会会長。
- ・新潟市出身
- ・博士（医学）
- ・千葉県立衛生短期大学（助手、講師、助教授、教授）、千葉県立保健医療大学（教授、学科長）、淑徳大学（教授）を経て現職。
- ・文部科学省による日本食品標準成分表の策定に食品成分委員会委員等として30年にわたり携わる。
- ・千葉県食育推進県民会議委員として食育ツール（グー・パー食生活ガイドブック等）の開発・普及も行っている。
- ・賞：日本栄養改善学会 学会賞（2007）  
日本食生活文化財団 日本食生活文化賞（2021）

### <著書>

1. 「食べ物と健康 食事設計と栄養・調理増補」南江堂 2021年
2. 「和食と健康」（思文閣出版）2016
3. 「ちば型食生活実践ガイドブック 本編」（千葉県）2021
4. 「ちば型食生活実践ガイドブック 資料編」（千葉県）2021
5. 「ちば型食生活実践ガイドブック 概要版」（千葉県）2021
6. 女子栄養大出版WEBマガ 「知れば知るほどおもしろい！「食品成分表」



3, 4, 5 の QR



グーパー食生活啓発活動動画 QR



6 の QRL

5	<b>学校マネジメント</b>
テーマ	<b>学校における働き方改革の達成と「社会に開かれた教育課程」の実現</b>
基調	<p>教員勤務実態調査（平成 28 年度）に端を発する学校における働き方改革の推進では、持続可能な学校指導・運営体制を構築するために、学校が担うべき業務に、これまで以上に組織として対応していくことができるように、学校の組織体制の在り方を見直し、教職員がやりがいをもって働き続けられる環境を整えていくことが必要であるとした。</p> <p>学校における働き方改革を達成するためには、学校が担うべき業務を明確にし、学校運営協議会制度等を活用しながら、管理職を中心として教職員が一致団結し、業務改善に取り組まなければならない。</p> <p>他方、子供や家庭、地域社会も変容し、教育諸課題はますます複雑化・困難化している。これらの状況に適切に対応し、子供たちに予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を育成するためには、学校教育の改善・充実のみならず、社会総掛かりで教育に当たらなければならない。中教審令和 3 年 1 月答申においても、よい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育むという「社会に開かれた教育課程」の実現が必要であるとの考えが改めて示された。</p> <p>この「社会に開かれた教育課程」の実現には、これからの社会を生きる子供たちに求められる資質・能力とは何かを教育課程において明確にすること、社会や世界の状況を幅広く視野に入れた教育目標を教育課程を通して社会と共有すること、地域の人的・物的資源等を活用しながら着実に教育課程を実施することが求められる。これらを遂行するためには、管理職のリーダーシップの下、教育諸活動を進める必要がある。更に保護者・地域と一体となって子供たちを育むためにコミュニティ・スクール等の教育活動を充実させることも必要となる。</p> <p>加えて、学校における働き方改革の達成と「社会に開かれた教育課程」の実現には、事務をつかさどり、学校組織における唯一の総務・財務等に通じる専門職である学校事務職員が、その力を発揮することが不可欠である。</p> <p>本分科会では、学校教育を維持・向上させるための、学校における働き方改革の在り方や、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校組織の構築、双方に関連した学校事務職員の学校運営参画の在り方等について提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 持続可能な学校指導・運営体制を実現する学校における働き方改革の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 組織的・機能的な学校運営</li> <li>② 学校事務職員の参画</li> <li>③ 専門スタッフ等と連携・協働する体制の整備</li> </ol> </li> <li>2 「社会に開かれた教育課程」を実現する学校組織の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保護者や地域の人々との目標やビジョンの共有</li> <li>② 保護者や地域との連携・協働体制の構築</li> <li>③ 学校事務職員の参画</li> </ol> </li> </ol>



## 指導助言者略歴 紹介原稿

第5分科会

天笠 茂 先生

第5分科会、助言者の天笠 茂（あまがさしげる）先生を御紹介いたします。

天笠先生は、筑波大学大学院博士課程単位取得満期退学後、千葉大学教育学部講師、助教授、教授を歴任。また文部科学省中央教育審議会副会長、同初等中等教育分科会教育課程部会長、同学校における働き方改革特別部会委員を歴任され、現在は千葉大学名誉教授をお務めでいらっしゃいます。

御著書として

「学校と専門家が協働するーカリキュラム開発への臨床的アプローチー」

「新教育課程を創る学校経営戦略ーカリキュラム・マネジメントの理論と実践ー」

等、多数ございます。

以上で天笠先生の御紹介を終わります。

### <略歴>

- ◎ 千葉大学名誉教授
  - ・筑波大学大学院博士課程単位取得満期退学
  - ・千葉大学教育学部講師
  - ・千葉大学教育学部助教授
  - ・千葉大学教育学部教授
  - ・千葉大学教育学部特任教授
  - 学校経営学、教育経営学、カリキュラムマネジメント専攻
  - ・文部科学省中央教育審議会副会長、同初等中等教育分科会教育課程部会長等を歴任

### <著書>

「スクールリーダーとしての主任」1998 東洋館出版社

「学校経営の戦略と手法」2006 ぎょうせい

「学校管理職の経営課題」（編集代表）全5巻 2011 ぎょうせい

「カリキュラムを基盤とする学校経営」2013 ぎょうせい

「管理職課題解決実践シリーズ」（監修）全5巻 2015 ぎょうせい

「学校と専門家が協働する

ーカリキュラム開発への臨床的アプローチー」2016 第一法規

「新教育課程を創る学校経営戦略

ーカリキュラム・マネジメントの理論と実践ー」 2020 ぎょうせい 等

6	<b>特別支援教育</b>
テーマ	<b>個に応じ、能力を伸ばす特別支援教育</b>
基調	<p>特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒数は年々増加している。また、通常の学級においても、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒の数も増加の一途をたどっている。また、特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方が有識者会議での審議がまとめられており、一人一人の教育的ニーズに応えていくためには特別支援教育の充実が不可欠である。このような状況下において、インクルーシブ教育システムの理念を構築し、特別支援教育を進展させるためには、「基礎的環境整備」の充実を図り、また、通常の学級においても特別支援教育の視点を加味した指導へと対応すること等が重要である。</p> <p>学習指導要領には、特別支援教育の重要性を鑑み、各教科における特別な支援を要する児童生徒への支援の例が明記されている。児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善・克服するとともに、将来において社会参加することができるように適切な指導・支援を行うことがより一層求められる。</p> <p>そのためには、幼児期から就労までの一貫した指導を見通した中で、学びの連続性を確保した教育課程の編成や個々の教育的ニーズに応じた個別の指導計画や教育支援計画の作成、また、ICT機器を活用した指導方法の工夫等について研究を深めていくことが大切である。</p> <p>併せて、特別支援教育コーディネーターを中心とした学校全体での支援体制の整備・強化を図るとともに、特別支援学級に在籍する児童生徒と通常の学級に在籍する児童生徒との交流及び共同学習や、特別支援学校等の関係諸機関との連携を緊密にすることも重要である。特に高等学校における通級による指導については、「高等学校及び中等教育学校における『通級による指導』実施状況調査（令和3年3月公表）で明らかとなった、「通級による指導が必要」と判断された2,485人のうち「指導体制がとれない」との理由により、1,085人に指導が行われていない現状からも、より充実した体制整備及び指導・支援方法の確立が望まれる。このような「多様な学びの場」を整備し、相互理解を深め認め合うための取組が今後ますます重要になる。</p> <p>本分科会では、社会的自立に向けた主体的な取組を支援するための、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすことのできる個に応じた適切な指導・支援の在り方について、研究を深めていく。また、特別支援教育の機能的な支援体制づくりについて協議し、提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 適切な指導・支援の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個に応じた教育課程の編成</li> <li>② 学びの連続性を重視した教育課程の編成</li> <li>③ 個別の指導計画及び教育支援計画の効果的な活用とその評価</li> <li>④ ICT機器等を活用した効果的な指導法や教材・支援ツールの共有化</li> </ol> </li> <li>2 全校的・機能的な指導・支援体制の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 特別支援教育コーディネーターを中心とした指導・支援体制の強化</li> <li>② 通級による指導の効果的な指導・支援体制</li> <li>③ 通常の学級や異校種間での交流及び共同学習</li> <li>④ 異校種間や専門家、医療・福祉機関等との連携</li> </ol> </li> </ol>

## 指導助言者略歴 紹介原稿

第6分科会	石塚 謙二 先生
-------	----------

第6分科会、助言者の石塚謙二（いしづかけんじ）先生を御紹介いたします。

石塚先生は、千葉大学修了後、千葉県立養護学校教諭、千葉県特殊教育センター研修指導主事、千葉県教育委員会指導主事、国立特別支援教育総合研究所研究室長、文部科学省特別支援教育調査官、大阪府・豊能町（とよのちょう）教育長、桃山学院教育大学教授等を歴任されました。

御著書として

『障害特性から考える自立活動の視点を生かした各教科の指導』

・『これからの特別な配慮を必要とする児童生徒の教育』

等、多数ございます。

以上で石塚先生の御紹介を終わります。

<略歴>

◎ 元文科省特別支援教育調査官・元桃山学院教育大学教授

- ・千葉大学教育学部卒業、千葉県立養護学校教諭、千葉大学附属養護学校文部教官教諭、千葉県特殊教育センター研修指導主事、千葉県教育委員会指導主事、国立特別支援教育総合研究所研究室長、文部科学省特別支援教育調査官、大阪府・豊能町教育長、桃山学院教育大学教授、桃山学院大学・大阪成蹊大学講師を歴任
- ・日本授業UD学会副理事長

<著書等>

- ・『気になる幼児の育て方：子どもに「寄り添う」ことでよりよい支援がわかる』2010（東洋館出版）
- ・『小学校特別支援学級指導用音楽CD』2011（日本コロムビア）
- ・『知的障害教育における学習評価の方法と実際』2012（ジアース教育新社）
- ・『ユニバーサルデザインと特別支援教育①「インクルーシブ教育システムと授業のユニバーサルデザイン」』2014（日本LD学会会報）
- ・『授業力&学級経営2月号（発達障害の基礎的な理解－その位置付けと障害特性への対応－）』2015（明治図書）
- ・『特別支援学級はじめの一步』2015（明治図書）
- ・『発達障害のある子どもの国語の指導－どの子もわかる授業づくりと「つまづき」への配慮』2016（教育出版）
- ・『授業のユニバーサルデザインとインクルーシブ教育システム』2017（日本授業UD学会学会誌プレ号）
- ・『知的障害教育におけるアクティブ・ラーニング：「深い学び」の実現と学びのメカニズム』2017（日本発達障害学会機関誌「発達障害研究」）
- ・『アクティベート教育学 特別支援教育』2019（ミネルバ出版）
- ・『障害特性から考える自立活動の視点を生かした各教科の指導（特集 個別最適化時代の自立活動、その視点を生かした各教科の指導）』2021（「特別支援教育の実践情報」明治図書）
- ・『これからの特別な配慮を必要とする児童生徒の教育（特集新しい時代の発達支援と特別支援教育）』2021（「月刊プリンシパル」学事出版）

## 助言者ゼミナール 実施計画

- 1 日 時 令和5年8月5日（土） 16:30～17:25
- 2 会 場 シーガイアコンベンションセンター
- 3 講 師 麗澤大学特別教授 高橋 史朗 氏  
 千葉大学名誉教授 明石 要一 氏  
 武庫川女子大学大学院教授 押谷 由夫 氏  
 東京栄養食糧専門学校校長 渡邊 智子 氏  
 千葉大学名誉教授 天笠 茂 氏  
 元桃山学院教育大学教授 石塚 謙二 氏

### 4 講義内容

講 師	講 義 内 容
高橋 史朗	日本モデルの Well-being 教育
明石 要一	Well-beingを目指した授業づくり
押谷 由夫	変動社会を心豊かに生き抜く子どもたちを育てる道徳教育を
渡邊 智子	生きる力を育む食育 ～ 学校給食の活用 ～
天笠 茂	地域と連携・協働したカリキュラム・マネジメント
石塚 謙二	障がいのある子どもの教育における個別最適な学びと協働的な学びを考える

### 5 助言者ゼミナールの流れ

時 間	担 当	進 行
16:15		<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 分科会終了後、司会者と助言者はそのまま分科会会場に待機する</li> <li>※ 第1分科会は、特別講座終了後に、高橋先生と打合せる</li> <li>※ 各会場の進行は、助言者の担当分科会の司会者が行う</li> </ul>
16:17	司会者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 助言者との打合せ及び準備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・助言者の先生とどのような形で進めるのかを打ち合わせておく</li> <li>・残り10分程度で参加者から質問を受けること等、運営方法を確認する</li> <li>・講義残り時間10分（17:05）で、講義終了が近付いていることを助言者に知らせるサイン等を決めておくのも良い                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開始時刻 16:30</li> <li>・ 質疑応答開始時刻 17:15</li> <li>・ 終了時刻 17:25</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
16:25	司会者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 着席の誘導                             <ul style="list-style-type: none"> <li>（必要に応じて）「座席前方に少々余裕がございます。後方にお座りの方は、どうぞ前方へ御移動ください」</li> </ul> </li> <li>※ 助言者がスタンバイしたことを確認する</li> </ul>
16:30	司会者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 助言者ゼミナール開始</li> </ul>

		<p>「皆様、こんにちは。これから（講師の先生の御名前）先生のゼミナールを開催いたします。担当は（所属単位団体名）（司会者の名前）でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>時間も限られておりますので、講師の先生のプロフィール等につきましては、大会冊子の【 】ページを御覧ください。</p> <p>早速、講義に移りたいと思います。【 】先生よろしくお願いいたします」</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;助言者ゼミナール&gt;</b></p>
17:10	司会者	<p>○ 講義終了時刻5分前</p> <p>「そろそろ終了時間が近付いて参りましたので、まとめに入らせていただきます」</p>
17:15	司会者	<p>○ 講義終了</p> <p>「それでは、残り時間で、御参加の皆様より【 】先生への質問をお受けしたいと思っております。なお、質問の際は所属単位団体名とお名前を発言の上、よろしくお願いいたします」</p>
17:23	司会者	<p>○ 助言者ゼミナール終了</p> <p>「以上をもちまして、【 】先生によります、助言者ゼミナールを終了いたします。【 】先生ありがとうございました。ここで、【 】先生が御公務の都合で御退出されます。皆様、盛大な拍手をよろしくお願いいたします」</p>
17:25	司会者	<p>○ 会員交流会と明日の予定についての連絡</p> <p>「ここで事務連絡をさせていただきます。</p> <p>この後、会員交流会に参加される方は、18:00からシーガイアコンベンションセンター4階天瑞にて会員交流会が始まりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>会員交流会に参加されない方は、シャトルバスの発車時刻が、17:45となっております。間に合うようにシャトルバス停車場へお越しください。</p> <p>また、明日はシーガイアコンベンションセンター4階天瑞にて全体会・記念講演会が行われます。8:30よりシーガイアコンベンションセンター4階天瑞に入場できます。御来賓の入場が8:58ですので、8:55までには御着席いただきますようお願いいたします。なお、本日受付にてお渡しした名札が参加確認証となります。お忘れにならないよう重ねてよろしくお願いいたします」</p>

## 助言者ゼミナール

8月5日（土） 16:30～17:25 【シーガイアコンベンションセンター】

講師	高橋 史朗 氏	シーガイアコンベンションセンター4階「天蘭」
<b>日本モデルのWell-being教育</b>		
<p>1. SDGsが抱える根本的課題とSDGsを補完する日本の哲学                  2. SDGsからWell-beingへ                  3. 日本文化に根ざすWell-being                  4. 感動が幸福に及ぼす影響                  5. ポジティブ心理学・アドラー心理学・幸福学の共通点                  6. 日本人の「文化的幸福」「集団的幸福」観                  7. 感知融合のWell-being教育                  8. 日本モデルのWell-beingの国際発信</p>		
講師	明石 要一 氏	シーガイアコンベンションセンター4階「天玉」
<b>Well-beingを目指した授業づくり</b>		
<p>個別最適で協働的な授業づくりが課題である。これまでは一斉授業が中心であり、「個別」は注目されなかった。これからはチャットGPTの登場で授業のあり方が変わってくる。ますます、一斉授業は難しくなってくる。その時、個別最適な視点の保障が求められる。子供一人一人を大切にしなければならない。そして子供の中から、問いを作り課題解決の方法を見つけ出す授業の構成が必要になる。そこで注目したいのがWell-beingである。前野先生によれば、「やってみる」「ありがとう」「何とかなる」「ありのまま」の4つの因子があればWell-beingになるという。これを授業づくりに使えないか、という提案である。</p>		
講師	押谷 由夫 氏	シーガイアコンベンションセンター4階「天樹」
<b>変動社会を心豊かに生き抜く子どもたちを育てる道德教育を</b>		
<p>「特別の教科 道德」が設置され、道德の授業に関する実践も着実に進められるようになりました。このような状況の今、「特別の教科 道德」を要として学校教育全体で取り組む道德教育をいかに充実させていけばいいのかについて検討し、これからの道德教育、「特別の教科 道德」の具体的な取り組み方について考えてみたいと思います。</p> <p>焦点化していえば、これからの激動の変化が予測される社会において、子どもたち一人一人が心豊かに生きがい感・幸せ感をもって生きていくための力を育む道德教育、「特別の教科 道德」について、皆さんで具体的な実践例等を交えながら、語り合えればと願います。</p>		
講師	渡邊 智子 氏	シーガイアコンベンションセンター4階「天葉」
<b>生きる力を育む食育 ～ 学校給食の活用 ～</b>		
<p>給食は、子どもの食事の見本です。各学校では、在学する子どものための「おいしそうでおいしい食事」が提供されています。地域の食文化（地域の旬の食材、料理法など）、安全、栄養、予算に配慮した食事です。献立作成に関わる栄養教諭や栄養士、調理に関わる調理師は、子どもの幸せを願って作っています。給食は、各学校にとって宝物の1つです。この給食を活用し、子どもの生きる力を育て、学校全体の元気力を高めましょう。</p>		
講師	天竺 茂 氏	シーガイアコンベンションセンター3階「瑞洋」
<b>地域と連携・協働したカリキュラム・マネジメント</b>		
<p>このたびの学習指導要領改訂の基本理念である「社会に開かれた教育課程」の実現をめぐる、学校・家庭・地域の連携・協働を生み出すカリキュラム・マネジメントを人的リソースの生かし方という観点から、その在り方を探る。</p>		
講師	石塚 謙二 氏	シーガイアコンベンションセンター3階「海峰」
<b>障がいのある子どもの教育における個別最適な学びと協働的な学びを考える</b>		
<p>「個別最適な学び」の充実を目指し、一律に同じ学習環境とせず、それぞれに適した学習の機会や手立てのきめ細やかさが求められるようになってきた。障害のある子どもの教育においては、これまでも、それは当然のことであった。この後、通常の学級と同様の教科学習が行われている場合は、「協働的な学び」を意識し、よりいっそう精緻な指導の手立てが求められるよう。一方、知的障害のある子どもの教育においては、教科内容等の特性を重視し、効果的な個別化と集団化を意図し、望ましい個性化と社会化の醸成を目指したい。生活に必要な社会の文化や規範などを实际的に身につけつつ、持てる力を高め、個性を形成し、実社会の中で自らを発揮できるよう手立てを尽くしたい。</p>		

## 参加者が体調不良を訴えた場合の対処

### ○ 腹痛や頭痛の場合

申出を受けた役員は、該当者に常備薬の有無を確認し、持ち合わせがない場合は事務局で準備した薬を使用する（薬を服用する際には、該当者に必ず確認を取ること）。

### ○ 熱中症等の体調不良の場合

- ・ 会場長又は宮教研連執行委員に知らせ、事務局の指示に従う。
- ・ 体調不良の場合の待機場所及び薬の保管場所

5日	シーガイアコンベンションセンター	4階【アンバールーム】
6日	4階【天瑞】	前受付

(事務局長にその旨を連絡すること)

全日教連事務局長 渡辺携帯 090-1605-4590

### ○ 意識がない場合や大きなケガ、急病等の場合

- ・ 緊急を要する場合には、直ちに救急（119番）へ通報する。  
(事務局長に、事後必ず連絡をすること)

### 必ず確認しておくこと

- ※ 分科会会場・全体会会場とも、必ずAEDの設置場所と非常口（避難経路）を確認
- ※ それぞれの会場の待機場所を確認

### 救急病院（教研大会期間中）

#### 宮崎市夜間急病センター（宮崎市郡医師会病院内）

宮崎県宮崎市大字有田1173

TEL: 0985-77-9915（夜間）

TEL: 0985-77-9101（昼間）

【診療時間】 年中無休 午後7時より翌朝7時まで

【診療科目】 内科・外科